

令和 7 年度（2025年度）

自己評価報告書

学校法人巨樹の会
武雄看護リハビリテーション学校
理学療法学科・看護学科

本報告書は、学校法人巨樹の会 武雄看護リハビリテーション学校の自己評価結果を記したものである。

評価対象期間 2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

令和 8 年 3 月 31 日

学校長 太田 貞武

学校評価実施責任者
教務部長 山本裕宣 納富裕子

1. 自己評価の概要と実施状況

1)自己評価の目的、方針

- ①教職員が自己評価を行う中で、学生教育ならびに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ②自己評価の妥当性を学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして学校運営の改善を図る。
- ④ 自己評価は本校の学校評価実施規程に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2)自己評価委員会委員

委員氏名	所 属
太田 貞武	武雄看護リハビリテーション学校 学校長
岸川 圭一郎	武雄看護リハビリテーション学校 事務長
山本 裕宣	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 教務部長
納富 裕子	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科 教務部長
山村ひと美	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科 教務主任
吉野 真紀	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 教務副主任
大宅 由紀子	武雄看護リハビリテーション学校 事務主任

3)自己評価方法

令和 7 年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目 I ～項目 X の内容について教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について検討を行い、学校関係者評価結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

1) 評価基準

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による 4 段階の評価基準にて実施する。

- S:十分に達成している。(達成度が高い)
- A:達成している。(概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
- B:達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)
- C:達成が不十分である。(不適合がある、明らかに改善を要する)

2) 自己評価の内容

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
- 項目Ⅱ 学校運営
- 項目Ⅲ 教育活動
- 項目Ⅳ 学修成果
- 項目Ⅴ 学生支援
- 項目Ⅵ 教育環境
- 項目Ⅶ 学生の受け入れ
- 項目Ⅷ 財務
- 項目Ⅷ 法令等の遵守
- 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念として「人間愛・自己実現」を定めており、人材育成像としては学校スローガン「夢叶う ところ豊かな医療人になるために」を軸として、3 つの心「温かい心」「思いやる心」「感謝する心」と具体的に明示している。

これらの教育方針はパンフレット、学生便覧、ホームページなどで広く周知徹底している。学生、保護者へも行事や通知等で目標を示すことができている。

各年度の重点目標となる教育方針は、毎年学校長より明確に提示され、教職員へ周知されているため職員が理解した上で職務に取り組んでいる。また、両学科ともに本校の教育理念・目的・人材育成像を踏まえたカリキュラムを作成し実践している。教育理念はホームページでもわかりやすく公表し、改善し、よりわかりやすい内容に作成できた。

課題

少子化、医療関係学校への進学率が低迷している中で、学生募集が重要な課題となる。高校生だけではなく、小中学生への看護師、理学療法士の魅力や仕事のやりがい伝えていくなど広報の対象者を広げていく必要がある。

改善の方策

- 小中学校、高校との連携を図り、職業紹介ができるような取り組みを実施していく。
- 地域の行事に参加し学校の知名度をアピールできる取り組みを実践していく。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

- 自己評価: S
- コメント

総括に記載の通り定められている。

小項目Ⅰ-2

学校の理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

- 自己評価: S
- コメント

学生・保護者・関係業界へ周知できるように、スローガンや3つのところ、本校の活動内容をホームページやInstagram、校内にも掲示し周知してもらえるように取り組んでいる。学生へは、始業式、講話、実習ガイダンス等で機会教育として伝えている。

小項目 I-3

各学科の教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: S

■コメント

両学科とも、本校の教育理念・目的・人材育成像を踏まえたカリキュラムを作成し実践している。社会に求められる看護師・理学療法士の育成ができるように、社会情勢や患者・家族のニーズに対応できる力を身につけられるように教育する。成績、授業アンケート結果等を参考にしカリキュラムの編成と実施が適切に行われたか評価を行う。これからの看護師に求められる能力を考慮して、社会に貢献できる学生教育の質の向上に繋げていきたいと考える。

項目Ⅱ 学校運営**総括**

毎年の教育目標について4月初めに学校長より具体的な目標提示があり、教職員へ方針が示された上でスタートしている。今年の目標として、①定数確保、②就職試験・国家試験 100%達成、③定着率 100%達成、④自然災害や感染症に対する臨機応変な危機管理、⑤学校の活性化が掲げられている。そのために教職員の指導力の強化やスピード感、優先順位を持った行動をとることが示され、教職員全員が意識し実践している。また学生の自主的な取り組み、ボランティア活動の実践もできた。意思決定機能については、運営会議(月1回)や管理会議(週1回)などで、学校長から運営方針に沿った指導・助言をもらい、教員間で話し合い指導の方向性について教職員の共通理解が出来ている。

情報システム化については、授業方法や講義資料の配信、メール機能の活用など一定の改善はできた。今年度は、生成系AIであるGoogle Gemini(ジェミニ)の活用等、ICT促進ができているが、一定の取り組みで停滞しておりDX化により業務改善ができる余地があると考え。また、AI活用等による学内での規定も検討しなければならない。

課題

今後さらなる業務効率化のために、学内の会議のペーパーレス化や会議資料作成でGoogle Driveを活用するなどGoogle Workspaceや生成系AIの有効活用ができるのではないかと。生成AI活用に関する学内規定が定まっていない。

改善の方策

- ・会議資料、会議録のペーパーレス化、生成AIを活用した議事録、資料作成を行う。
- ・生成AIを活用する際の学内規定の検討を行う。

小項目 II-1

目的等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S

■コメント

今年の目標としては、就職内定や国家資格取得に向けて教職員の指導力の強化、スピード感や優先順位を考えた行動が掲げられ、教職員が意識して実践した。ボランティア活動では、地域の施設の行事、夏祭りの手伝い、障がい者施設の支援など学生が主体的に取り組めるようサポートを行った。

小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: S

■コメント

学校長を中心として指示命令システムは明確であり、各種会議にて審議を行っている。また、毎日の朝礼時や学科会議で学校や学生の現状を共有、把握して教職員が同じ方向性をもって行動が取れるように運営している。

小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

会議資料のペーパーレス化やGoogle Workspaceや生成系AIの有効活用について職員全体で共有していく必要がある。

項目Ⅲ 教育活動**総括**

両学科ともに学校理念や教育目標、カリキュラムに沿った体系的で組織的な教育を実施している。学生に対しては、シラバスの中で各科目の体系的な位置付けや教育方法など明確に記載しており、開講時に各科目担当者が説明、確認を行っている。

学習習慣・生活習慣を確立させ、目標をもって学校生活が送れるように支援している。理学療法士、看護師としてのキャリアデザインを構築して学校行事の中で学生達の自主的な行動を促し、学

生たちの力を引き出せるようにつなげていくことが出来た。

教員の資質向上については教育目標にも掲げられており、優先順位を考えながら各教員が「職責と職務」を念頭に置いて教務に取り組んだ。専門領域での教育の質を高められるよう、教員の研修、学会参加がしやすいように学校からも支援した。今後は、更なる自己研鑽に努め、他の教員への伝達講習を行い他の領域の内容も学習し幅を広げていくことが必要である。

課題

カリキュラム評価を行い次年度の教育への課題を明確にする必要がある。また、評価内容や課題を学生と共有し、学生と教員が相互作用で学び合える教育にしていきたい。

改善の方策

教員全体が教育理念やポリシー、カリキュラム全体像をしっかりと把握する必要がある。そのうえで常に新しい情報を取り入れながら、学生が主体的で能動的な学びをするための工夫を実践していく。また、教員間での情報共有や授業評価を確実に行うと共に学生へフィードバックを行い授業改善に繋げていく。

小項目 Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: S

■コメント

理学療法学科では昨年度見直しを行ったカリキュラムツリーをもとに、各教員が科目の繋がり等を考えて講義に取り組んだ。

看護学科は、実習、講義を通して看護師としての専門的な知識・技術と社会人基礎力としての人間力を育むことができている。

小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: S

■コメント

カリキュラム評価の結果から講義の順序性、教育内容の領域横断など、学生が学習しやすいカリキュラムへ変更して実施できた。看護学科2年生の成人老年看護学慢性期実習の評価規準や内容も見直し、実習評価表を変更した。実習前の学習方法、実習指導方法を変更した結果、実習評価(成績)の向上に繋がった。

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: S

■コメント

学生からの授業評価、教員同士での授業評価の実施はできた。しかし、学生へのフィードバックができていないため、今後は、学生へもフィードバックを行い、共に創り上げる授業にしていきたい。

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S

■コメント

国家資格取得に向けて1年次から対策を図っており、学生達の性格も把握しながら3年間を見据えて、学生達の学ぶ力を育成している。今年は教養として臓器移植についての特別講義や社会人マナーセミナーも実施した。3年次はチューター制をとり、個別指導を行い国家試験対策も実施した。

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: S

■コメント

学生や教員からの授業評価や学校法人の中央研修、学会参加など教育の質向上のための環境は整っている。今年度は対面の研修会も増え、法人内の研修にとどまらず外部研修にも参加することが出来た。研修後の振り返りと学生・学校への貢献に努める。

項目Ⅳ 学修成果

総括

国家試験の合格率は、理学療法学科は33名全員合格となり5年連続100%を達成することができた。看護学科は、39名全員国家試験受験し、合格100%を達成することができた。

就職は、開校以来13年連続100%を達成できている。面接や履歴書の個別指導など細かな対応をしている。

退学率低減に対する取り組みとして、早期からの学習支援、悩みや不安を抱えている学生への個別相談、専門家によるカウンセリングなどを実施している。また、教員会議で情報共有し統一した

指導になるよう留意している。学校や学ぶことが楽しいと思ってもらえる関りができるよう努力している。

在校生の社会活動として、国体出場等を応援し、学業と社会活動が両立できるように支援した。

課題

学生の動向を日々把握し、気になる学生等には早期に対応してきたが、退学者がでた。学生の思いを受け止めつつも、看護師・理学療法士の魅力や将来の展望等を含め情報発信や共に学ぶ姿勢づくりができたのではないかな。

両学科とも国家試験全員合格のために、学生に応じた学習対策とメンタルサポートを図っていく。卒業生アンケートが実施できなかった。

改善の方策

まずは教員間の意思を統一し、一人ひとりの学生を見ていく。気になる学生や欠席がある学生を注視し、学生目線での関りを行っていく。また、次年度も卒業生の就職施設を訪問し、本校の教育に関するご意見やアンケートを実施し、課題を学内での教育へ活かす。

卒業生アンケートを企画し、計画して実施する。

小項目 IV-1

就職率の維持が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

就職希望者看護学科 39 名、理学療法学科 33 名が年内に 100%内定を達成することが出来た。より早期に希望施設への内定を獲得し、安心して国家試験対策に取り組むことができるように支援していきたい。

項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

近年は覚えるだけでは解答できず、思考力を要する問題が増加している。暗記と思考・理解の対策を確実に身につけられるよう、指導方法も工夫した。今年度の取り組み状況を振り返り、次年度も両学科 100%合格が達成できるように教員全体の意識を高め、学生の思考力を養っていく。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

退学率)

定着率に対する担任の意識が高まり、定着率が向上している。

看護学科:1 年生 1 名進路変更。

理学療法学科:1 年生 1 名進路変更。2 年生 2 名進路変更。

小項目 IV-4

在校生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: S

■コメント

スポーツでは、なぎなたの全国大会に出場した学生がおり、学校でも激励している。ボランティアでは、特別支援学校のボランティア、障がい者施設の行事の手伝い、武雄町の盆踊りの司会、武雄市ワイワイ会議に参加し意見交換会が実施できた。

小項目 IV-5

卒業生の社会的な活躍を把握し、教育活動の改善に活用されているか。

■自己評価: A

■コメント

理学療法学科、看護学科共に、海外青年協力隊として、パラオ・ベナンに派遣された卒業生を激励した。また、在校生へそのような活躍している先輩がいることを講話や学内掲示で紹介した。

両学科ともに卒業生が来校することが多く、その際には現状把握や情報交換を行っている。また、卒業生が就職説明会へ求人担当として来校したり、外部講師として教育活動へ協力してくれたりしている。

今後、卒業生へのアンケートも実施し、現状の課題等の把握もしていきたい。

項目 V 学生支援

総括

就職活動は、学校長を含め職員全員で支援する体制をとっている。今年度も両学科とも早期に全員が内定をいただくことができた。理学療法学科は、受験倍率が高い就職先も多かったが全教員で関わることで多くの学生が内定をいただくことができた。また、キャリア支援として理学療法学科 2

年生も就職説明会に参加し示唆を得ることができた。

学生の相談窓口としては、担任を中心に定期的に面談を実施している。また、学生の変化を早期に察知し、随時保護者も交えて情報共有及び対応をしている。

課題

就職募集の時期が早まり、看護学科は2年次末より就職試験が開始となっている。就職する地域や病院の種別も様々であり、1・2年次のキャリア教育を行っているが、時期や内容を含めて検討が必要である。

改善の方策

学生のキャリア教育を1・2年次よりしっかりと行い、学生の目指す目標が達成できるように職員も就職支援を早期より準備を行う。AI活用が注目される中、履歴書や面接は、個人の強みや目標を明確にアピールできるように個人指導が大切であり、準備の段階から個別指導を徹底していく。2年次末から就職説明会を導入し選択の幅を広げているが、施設の分析を行い、学生の状況と施設をマッチングさせながら支援をしていく。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

就職活動に関して、関連病院がある強みを学生達へ入学時より伝えるなど、自らのキャリアデザインについて考える機会を設けている。2年次に関連病院の見学を目的とした研修旅行を実施し、また、関連病院からの就職に向けたガイダンスを実施していただき、実習や就職に向けての意識を高めることが出来た。

最終学年に対しては、担任を中心に履歴書や面接の個別指導を徹底している。学校長を中心に一人ひとりに細やかな指導を行い、両学科とも早期に全員の内定が決定した。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

学生の学校生活に関する悩みには、担任を中心に教員全体で早期に対応している。学生が直接スクールカウンセラーに相談(月2回)ができるような環境が整っており、臨床心理士の方から、より専門的に学生の対応をしていただけている。学生がカウンセリングを受けやすい環境づくりや声掛けを行っている。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S

■コメント

2年次に保護者会を開催し、学生の日頃の様子や就職、実習に向けての説明をしている。行事や連絡などの際に、保護者メールを利用し、内容一斉送信できている。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: S

■コメント

高校と専門学校で連携し高校生へのキャリア教育を実施している。本校へ来校していただき、理学療法や看護の体験学習をしていただいた。また、地域連携講座に参加し高校生対象に理学療法士・看護師の職業紹介、地域での役割ややりがいについて話すことができた。

近隣の高校と保健体育の授業で「心肺蘇生法」の学習を合同で実施することができた。

新武雄病院と連携し、中学生・高校生向けの職場体験会を設けている。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S

■コメント

令和7年度より、入学初年度の授業料減額制度を設けた。保護者や高校からも良い意見をいただくことができています。

各種修学支援制度は、今年度も整備し学生が学習しやすい環境となっている。(両学科の特待生制度、職業訓練給付金制度、高等学校修学支援金制度)

項目 VI 教育環境

総括

授業に必要な物品の確認・導入を行っており、教育環境を随時整備している。新武雄病院と同じ医療機器を備えており、就職後も安心して医療機器を扱うことができています。図書については、学生管理のもと不明書籍なく運営出来た。

オンライン授業の方法も教員に定着し、スムーズに導入できるようになった。

臨床実習では、看護学科の地域看護実習は地域の施設や職種より協力いただき学びの多い実習が実施できた。

課題

物価高騰により光熱費も高くなった。学生は、学びやすい環境を考えながら節電の意識を持つように学校、寮生活の節電意識を持つことが必要である。

改善の方策

学生が学習しやすい環境調整と共に、物品管理や節電の優先順位を考えながら行っていく。臨床実習施設も随時追加しながら充実させていく。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

授業に必要な物品の確認・導入を行った。授業で使用するパソコンを新しく購入し最新のシステムで効果的な講義ができるようになった。開校から 15 年が経過し、設備等で劣化に伴う不具合が生じたこともあり、適宜対応している。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: S

■コメント

【看護学科】

県外、遠方で実施していた実習を近隣で確保し、実習を実施することができた。

【理学療法学科】

今年度も関連病院で計画通りの実習が行われた。今後も遠方の実習施設との情報共有や学生の状況把握をもっと密に行い、すぐに対応できるようにしていきたい。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

消防訓練を実施した。訓練を計画通りに実施するのではなく、その時の状況、その場にいる人

材でどのように避難指示を仰ぐか、学生はどのように安全に避難するかを考えて行動する訓練の方法へ切り替えた。

項目Ⅶ 学生の受け入れ、募集

総括

佐賀県、長崎県の高校を訪問し、在校生の現状と活躍や頑張っている姿を報告し、情報交換を行っている。オープンキャンパスや学校説明会、高校訪問やガイダンス等で、学校状況や入試日程について積極的に情報提供している。佐賀県職業専門部会と連携を図り高校でのガイダンスも実施している。学校説明会では、在校生がボランティアとして参加し、参加者と直接交流する環境を設定した。このように開かれた学校を意識しながら広報活動を行っている。

インスタグラムに関しては、ほぼ毎日学校生活の様子を配信し閲覧者も増加している。今年度の学校説明会・オープンキャンパス参加者数は、理学療法学科は若干名減少し、看護学科は微増加した。ここ数年と比較すると入学試験受験者の減少に影響している。

高校関係者の来校も多く、来校いただいた際は直接学校生活や実態を見学していただくようにしている。

新武雄病院のパンフレットに、本校の紹介を掲載いただき学生募集の広報へ繋げている。

課題

少子化に伴う県内高等学校再編統合や高等教育無償化、大学志向などの影響を受け、入学試験の受験者が減少している。

改善の方策

高校訪問を早期より開始し、学校説明会の案内をこれまでよりさらに強調して伝える工夫をする。在校生の協力を得て、高校へ本校の強みを情報発信し、高校生、社会人より選ばれる学校づくりを行っていく。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S

■コメント

高校訪問時に対応していただいた先生へ在校生の現状報告も行っている。

高校の校長先生及び先生方の訪問も多く、可能な限り学内見学を通して学生の生活状況を通じて直接見ていただくようにしている。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: A

■コメント

高校訪問時やガイダンス、オープンキャンパスの際に、在校生の進級率、学生支援体制、国家試験の合格率を伝えている。またホームページやパンフレットにも資格取得や就職実績も掲載している。学内には、就職先一覧を掲示し、在校生および来校者への情報提供となっている。

しかし、定員数を満たせておらず、今後も募集活動を工夫しながら実施していく必要がある。

項目Ⅷ 財務**総括**

定期的な会計監査が行われており、適正に管理されている。本部からの監査結果も職員全体へ周知し、全員が財務を意識して学校運営に取り組める環境にある。

財務については学生数に影響していくため、多くの学生たちが入学したいと思われる学校造りを教職員全体で実践している。今年も佐賀県による補助金を活用させてもらうことができた。

課題

物価や光熱費が高騰化してきているため、適正に使用し経費節約に関する職員と学生の意識を高める必要がある。

改善の方策

教職員や寮生へ定期的に諸経費の状況を伝えながら無駄のない経費の運用に努める。

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A

■コメント

総定員に対する在籍率は100%以下となり、財政の見直しが必要となる。今後も、入学生確保に取り組み、状況に合わせた予算の見直し等が必要となる。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: A

■コメント

消耗品や光熱費の削減には努めているが、突発的な工事・修理が予算内以上にかかる事象も発生し、常に財務を意識して取り組んでいる。寮生の光熱費も定期的に管理し指導している。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載されている通り会計監査を実施しており、今後も継続していく。

項目Ⅸ 法令等の遵守**総括**

法令を遵守しながら適切に学校運営を実施している。学生へも実習などを通して個人情報の取り扱いの指導を行い、医療人としての遵守事項を周知している。

令和7年11月に佐賀県医務課、令和8年1月に本部監査を受けた。

課題

成人年齢の引き下げに伴い、詐欺防止指導なども強化していく必要性がある。

改善の方策

守秘義務や情報リテラシーについて1年次より定期的に説明を行っていく。

引き続き注意喚起を図り、リスク管理に努めて欲しい。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S

■コメント

法令や設置基準を遵守しており、今後も継続する。新たに設けた規程なども勉強会を実施しながら運用している。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S

■コメント

学校内の情報漏洩がないように、常に学校長からも職員への周知徹底がなされている。SNS利用時も学生個人が特定されないような対応を実施している。実習中も個人情報保護規定を遵守している。

項目X 社会貢献・地域貢献

総括

社会貢献、地域貢献として、ボランティアに参加したり、学校周辺の清掃活動を行い、活動を通して人間性を高められるように教育している。ボランティア参加人数も増え、学内の行事でも積極的に協力してくれるように成長できた。ボランティアの経験から、人を思いやる気持ちや協力体制を整える必要性を学んで欲しい。

課題

ボランティアの内容だけでなく、身だしなみ、態度、言葉遣いなど場にふさわしい対応ができるように指導していく必要がある。

改善の方策

日頃より、身だしなみ、態度、言葉遣いなど他者へ与える影響を考えさせ、地域連携の大切さを伝えていく。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: S

■コメント

今年度も地域の要請に応じて受け入れを行った。高校の模擬試験会場、高校入試会場、新武雄病院研修、佐賀救急医学会、佐賀県理学療法士会の研修などへ協力し、施設を活用してもらった。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: S

■コメント

ボランティアでは、特別支援学校のボランティア、障がい者施設の行事の手伝い、武雄町の盆踊りの司会、武雄市ワイワイ会議に参加し意見交換会が実施できた。

両学科とも講義の一環として地域連携活動も実践し、高齢者や障害のある方々との交流も深めることが出来た。